

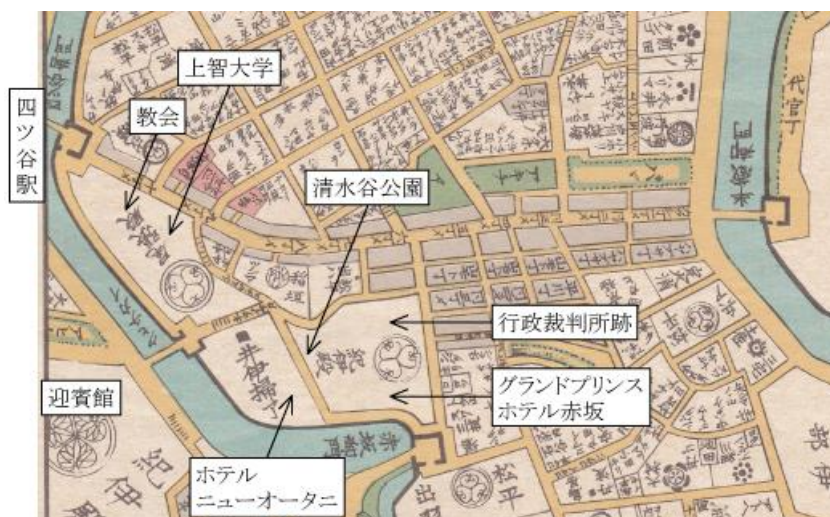
鎌倉楽しむ会

第16回 四谷・赤坂地区歴史探訪の資料

平成 29 年 9 月 27 日

スタート JR 四ツ谷駅麴町口 9 : 30

〈 江戸時代の古地図 〉



四谷見附跡

①



八王子千人同心の像

- 見附とは、警備のための櫓形を有する城門のことで外濠沿いに36ヶ所設けられ、見張りが常駐していた。
- 四谷見附は寛永16年（1639）山口藩主・毛利秀就公により築造された。江戸城の西の防御を担っていました。しかし、明治5年（1872）には櫓形門は取り壊され、明治27年（1824）に外濠の一部を埋め立てJP四ツ谷駅（旧甲武鉄道）が開業した。石垣の一部が現存する。国史跡。
- 甲州街道について・・・当初の甲州街道は、江戸城と甲府城を結ぶ軍事目的を主眼としたものでしたが、江戸城に危機が及んだときの避難路だったという説もあります。さらには江戸城半蔵門から府中を通り、八王子で八王子千人同心*を引き連れて甲府城に入ることを考えて整備されたとも言われています。参勤交代の大名は3つの藩だけであったが、江戸中期ころから、甲州、信州などから江戸への流通の道として重要性を増していき、毎年4月には、幕府御用達の宇治茶を江戸まで届ける「お茶壺道中」も通り街道筋は賑わいをみせ、江戸100万人の生活を支える動脈として発展してきました。（京王電鉄HPより参考）
- 八王子千人同心について・・・戦国時代、武田勝頼軍は織田・徳川連合軍に天正3年（1575）長篠の戦いに敗れ衰退の一途を辿っていく。天正10年3月（1582）の天目山の戦いで、勝頼公は自害し、ここで甲斐武田は滅んでしまう。残された優秀な家臣団を徳川家康公は積極的に調略し、自軍の家臣団に加えていく。家臣団の一人、大久保長安公に慶長5年（1600）八王子千人同心を作らせた。規模は千人頭10名に率いられれた1000名で構成され、江戸時代初めは江戸の警備隊としての役割を持っていたが、太平の世になり警備の役割は薄れ、徳川四代將軍家綱公の時代・承応元年（1652）より日光東照宮を警備する日光勤番が主な仕事となった。明治維新まで続き、現在は八王子市と日光市は姉妹都市となっている。

聖イグナチオ教会

②



● 聖堂は楕円形となっています。楕円は命と復活の象徴である卵の形となっています。聖堂の中心は「最後の晩餐」の食卓である祭壇が置かれています。会衆席は、この食卓である祭壇を囲むように放射状に配置されています。聖堂を囲む十二本の柱は、キリスト教会を支える十二人の使徒を表しており、蓮の花をかたどった天井、さらには楕円の壁には十二枚のステンドグラスが嵌められています。(聖イグナチオ教会HPより)

尾張藩の中屋敷跡

③



● 尾張藩初代藩主は、徳川家康公の九男・徳川義直です。ここは尾張藩の中屋敷です。御三家の筆頭として尾張一国・三河・美濃などの一部領地内は東海道の街道が通り、尾張の政治、経済、文化の中心となっていた。現在の上智大学、聖イグナチオ教会も敷地でありました。また、北側の敷地には戦前は小住宅密集地でした。南側は大邸宅のほかは四谷税務署、オーストリア公使館などがありました。(千代田区観光協会HPを参考)

近江彦根藩屋敷跡

④



● 井伊直政公は関ヶ原の戦いで、徳川家康公の東軍の中で重要な活躍をして勝利に貢献し、戦後すぐ、慶長5年(1600)石田三成の居城であった近江佐和山に16万石を与えられました。直政の子・直継の時代に彦根城を築城し、元和5年(1615)直孝に家督を譲り30万石の譜代大名になった。以後16代にわたって明治維新まで続きました。この地は江戸時代、近江彦根藩の中屋敷がありました。

ホテルニューオータニ庭園

⑤



● ホテルニューオータニ庭園の歴史・・・江戸時代初期は加藤清正公の地でした。清正公の死去により11歳の忠広公が家督を継いだ、家臣団の統率ができないなどの理不尽な理由で改易となった。その後この地は彦根藩井伊家の中屋敷となり、明治維新の代になり、伏見宮邸宅となりました。第二次大戦後、ニューオータニ創業者の故大谷米太郎氏が買い取り自邸とし、昭和39年(1964)東京オリンピックの年、ホテルニューオータニを建築し、庭は見事な日本庭園として整備しました。

清水谷公園

⑥



● 左の画像は清水谷公園内にある「大久保利通公の業績を称える石碑」です。明治11年(1878)に紀尾井坂で、時の参議兼内務卿で明治維新の立役者大久保利通公が暗殺された。その死を惜しんで、政府官僚の同僚達によりこの石碑が建立されている。高さは約6尺の大きさで、明治21年(1888)に完成し、碑文は太政大臣・三条実美公の揮毫です。石碑は千代田区の文化財に指定されています。この清水谷公園は明治23年(1890)東京市の公園となった。また、麴町道路拡張工事から出土した玉川上水の江戸時代の石枡が展示されています。

紀州藩屋敷跡

⑦



● 徳川御三家の紀州藩は、徳川家康公の10男・頼宣公が元和元年（1618）に藩祖となり発足した。寛永9年（1632）の拝領地は145,381坪で中屋敷として使われていた。紀州藩5代藩主の徳川吉宗公は、徳川幕府7代将軍家継公の早逝により、享保元年（1716）紀州藩主より徳川幕府八代将軍に就任し名君として名を残している。

● 明治6年（1873）明治天皇の皇居として使用していた江戸城西の丸が火事で焼失したため、紀州藩赤坂邸を皇居が完成するまで天皇のお住まいとした。JR四谷駅から青山一丁目にわたる広大な屋敷跡は、現在そのまま赤坂御用地となり、東宮御所、秋篠宮家、三笠宮家や赤坂離宮迎賓館として使用されている。

● 東京ガーデンテラス紀尾井町の場所も紀州藩跡に建築されて、赤坂プリンスクラシックハウスは、昭和3年（1928）朝鮮李家の邸宅として建築されたものである。

赤坂見附跡

⑧



● 赤坂見附は寛永13年（1636）福岡藩主黒田忠之により石垣が作られ、門は三年後の寛永16年に完成した。36見附でも最重要な見附の一つであった。維新後の明治5年（1872）に門は撤去され、現在は石垣の一部が残っている。「江戸城外濠跡」として、国の史跡に指定されている。

豊川稲荷東京別院

⑨



● 山号を圓福山とし、寺名は「豊川閣妙巖寺（とよかわかくみょうごんじ）」とする曹洞宗のお寺です。一般的にお稲荷さんは神社ですが、ここは寺院です。お祀りしているのは「豊川茶祝尼眞天（とよかわだきにしんてん）」です。豊川茶祝尼眞天が稲穂を荷い、白い狐に跨っておられることから、豊川稲荷が通称となっていました。

●江戸時代8代将軍吉宗公の時に、大岡越前守忠相公は名奉行として活躍し、延元元年（1748）三河国西大平（現岡崎市）を与えられ一万石の大名に出世する。知行地の近くの豊川稲荷の分霊を江戸・赤坂一ツ木の守護神として自邸内にお祀りし日常信仰していた。稲荷信仰が庶民の間で盛んになり、文政11年（1828）大岡家では門戸を開放し庶民の参拝を許した。明治20年（1887）には赤坂一ツ木の大岡邸から移転遷座し現在の地に祀られることになりました。古くは数々の武将たちの信仰を集めました。庶民の間では商売繁盛、家内安全、福德開運の神として多くの信仰を受けています。

虎屋京都店

⑩



● とらやの創業は室町時代後期で京都です。後陽成天皇の在位中（1586～1611）より御所の御用を務めるようになった。明治2年（1869）東京遷都にともない、明治天皇にお供して京都の店はそのままして東京に進出してきました。昭和39年（1964）建設した赤坂とらや本店は建て替のため休業中です。ニューアルオープンは平成30年とのこと。（とらやHPより）

⑪

草月会館



● 日本の近代建築を牽引した建築家・丹下健三氏により、昭和52年（1977）に竣工しました。世界的なアーティスト、イサム・ノグチ氏による「石庭」や多目的ホールを備えています。いけ花はもとより、ジャンルを超えた創造活動の発信地となっています。チョット、館内の見学はと思いますが、気持ちよく見学できます。

カーテンウォールに赤坂御所の緑を映し、青山通りに映える草月会館です。2Fのカフェ「コーネルコーヒー」はゆったりと過ごせるようにできている。

⑫

高橋是清公園



● ここは高橋是清公園は、高橋是清翁の本邸跡です。翁は安政元年（1854）江戸の芝で川村庄右衛門の子として生まれ、仙台藩士高橋是忠の養子となり、11才の時、横浜へボン塾で英語を学び、14才で米国へ留学しました。宿泊先から奴隷に売られ、苦勞の末に明治元年（1868）に帰国。官吏、日銀総裁を経て政界に入り、大正2年（1913）には、蔵相を務め、20代内閣総理大臣官邸に就任した。また、歴代内閣の蔵相を6度も務めあげました。

卓抜な英語力と苦境に強い精神力を持ち「ダルマ」の愛称で親しまれたが、軍事予算の縮小を主張し、軍部の反感を招き、昭和11年（1936）2月26日の2：26事件に巻き込まれ、この邸宅で暗殺された。邸宅は移築され、現在は「江戸たてもの園」にて公開されている。

⑬

報土寺



● 慶長19年（1614）赤坂一ツ木に創建され、幕府の用地取り上げにより、安永9年（1780）に、ここ三分坂に移転した。この築地堀は、その頃造られたと言われている。坂の多い港区の中でも、特に急坂として知られる「三分坂」に沿って造られており、堀が弓なりになって珍しいものです。江戸の寺院の姿を今に伝える貴重な建造物です。（東京都教育委員会標識より）

● 「雷電為右衛門の墓」・・・明和4年（1767）信州小諸の生れ。天明4年（1784）に浦風林右エ門に弟子入りし、寛政2年（1790）の初土俵から、文化8年（1811）の引退までの22年間で大関（当時の最高位）の地位を保つこと33場所にもものぼり250勝10敗の大業績を残した。資料によると身長197㌢、体重は170㌔であったという。

⑭

乃木神社



● 明治45年7月30日に明治天皇が崩御されて御大葬の日に決まった大正元年9月13日御霊柩車が宮城を出発する号砲が打たれた午後8時すぎに、乃木将軍と静子夫人は先帝に殉じて自刃を遂げた。時の東京市長・阪谷芳郎男爵は広く同志を集め、乃木邸内の小社にご夫妻の御霊をお祀りした。

大正8年（1919）には乃木神社創立の許可が下り、明治神宮の創建の後の大正12年（1923）11月1日に鎮座祭が斎行された。旧乃木邸は明治35年（1902）の現存する建物です。

⑮

ミッドタウン・ガーデン



● ミッドタウン・ガーデンは、外苑東通り入口を深山に見立て、これから港区立檜町公園に至るまで、「高原の湧水ゾーン」、「山のせせらぎゾーン」、「森のエッジゾーン」、「芝生広場ゾーン」に分けられて設計されバラエティーに富んだ景色を実現しています。

また、防衛庁時代から、この地に根を張っていたクスノキやサクラなど140本が移植され、枝ぶりの見事な大木が、そこに姿を見せます。また、ガーデンは、様々なイベント会場にも使われていて、特にクリスマスシーズンには約2000㎡の芝生広場に「スターライトガーデン」という無料で鑑賞できる見事なイルミネーションが行われる。

⑯

檜町公園



●江戸時代、長州藩毛利家の下屋敷のあったところで、庭園は「清水園」と呼ばれ、江戸大名屋敷の中でも名園の一つであったという。また、周りが檜の木が多かったので「檜屋敷」とも呼ばれ、後の「檜町」という地名の由来にもなった。

明治になり、毛利家の屋敷一帯は国の管轄になり、歩兵第一連隊の駐屯地となった。第二次大戦後は米軍に接收され、返還されてから防衛庁が設置された。その残りの部分が「檜町公園」として整備され、昭和38年(1963)に都立公園に、そして、昭和43年(1968)には港区の所管となった。

平成12年(2000)には隣接する防衛庁が市谷に転出。その跡地に東京ミッドタウンが開発され、ミッドタウンガーデンと調和のとれた開放的な公園となっている。

⑰

赤坂 氷川神社



●天暦5年(951)赤坂一ツ木村に創建された。江戸時代に入り徳川吉宗公が、享保元年(1716)徳川八代将軍になり、享保14年(1719)に老中岡崎藩主水野忠之公に命じ、現在地(忠臣蔵・浅野内匠頭の夫人、瑤泉院の実家・浅野土佐守邸宅跡)に、現社殿を建立された。

御社殿は、江戸時代のままの姿で東京都重要文化財に指定されています。

ご祭神はスサノウノミコト、クシナダヒメノミコト、オオナムジノミコト＝大国主命です。縁結びのご利益があります。安政の大地震、関東大震災、東京大空襲にも被災されず強運の神社です。樹齢400年の大銀杏が境内にあります。

⑱

勝海舟邸宅跡



●幕臣として活躍した勝海舟公が明治5年(1872)の49才～76才で亡くなるまで住んでいた邸宅跡です。勝海舟公は幕末期にこの地から近い赤坂氷川坂下に住まいしていたが、明治元年(1868)に徳川慶喜公の隠居に従って、静岡に転居した。

明治5年(1872)には江戸に戻り、赤坂のこの地を終の棲家とした。また、石碑は「勝安芳邸跡」となっているが、維新後、「安房」と官位で呼ばれることを嫌ったのか「安房」の文字から転じて「安芳」となっている。

①9

日枝神社



● ご祭神は大山咋神（おおやまくいのかみ）です。近江国比叡山に鎮まります神様です。

武蔵国開拓の祖神・江戸郷の守護神として、江戸氏が山王宮を祀り、さらには、太田道灌公が江戸城を長禄元年（1457）に築城した。その江戸城の守護神として文明10年（1478）川越山王社を勧請し、江戸の町全体の繁栄の礎を築きました。

天正18年（1590）徳川家康公が江戸に入府され、「城内鎮守の杜」として崇敬された。二代秀忠公の時、江戸城を大改修し城内の紅葉山に祀られていた山王社を江戸城外に定め、社殿を新しくして遷座されました。現在の国立劇場辺りです。

明暦の大火（1657）で社殿は炎上しましたが、四代将軍徳川家綱公は、直ちに赤坂の現在地に権現作りの社殿を造営し天下泰平、万民和樂の都を守護する祈願所として崇敬されました。

寛治2年（1659）造営の社殿は、江戸初期の代表的な建造物として国宝に指定されていましたが、昭和20年（1945）5月の戦禍に遭い総てが灰塵となりましたが、昭和33年（1958）本殿が完成し現在に至っています。（日枝神社HP参考）

また、狛犬ではなく「神猿（まさる）」が神様のお使いとして守っています。“魔が去る” “勝る” につながるといふことも言われています。

②0

赤坂サカス



● 赤坂サカスは、平成20年（2008）に誕生した港区赤坂の複合施設です。「TBS放送センター」をはじめ、収容人員約1400名のライブハウス「赤坂BUTs」やミュージカルやコンサート、歌舞伎と幅広いジャンルの演目を上演する「赤坂 ACTシアター」などエンターテインメントにあふれたスポットが集結している。

地下一階、地上三階に46店舗が建ち並ぶ商業施設・オフィス棟のある「Bizタワー」が一つの街の風景を作りだしている。

「赤坂サカス」のネーミングは、2月中旬の河津桜から咲き始め、4月下旬の八重桜まで約100本の桜が咲き競うところから「桜を咲かす」が一つ。赤坂には沢山の坂があります。分坂、薬研坂、丹後坂、牛鳴坂、氷川坂等々数多く存在するので「坂s」（複数形）が二つ目。

そして、三つ目が「赤坂サカス」のローマ字表記「akasaka Sacas」を後ろから読むと「SACA SAKA SAKA」＝「坂・坂・坂」となります。

このように赤坂という土地のもつ「和」のイメージを重視してつけたということです。

（Tokyo おでかけガイドより抜粋）

完